



学校教育目標 やさしく、たくましい子どもの育成

**よく学ぶ よく遊ぶ 明るく仲良く 安全に**

“子ども、保護者、地域、教職員、みんなが誇りに思い、楽しいと思える学校づくり”

〒801-0833 門司区清滝5-3-21 TEL 331-1708 FAX 331-1709 校長 松本喜義

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

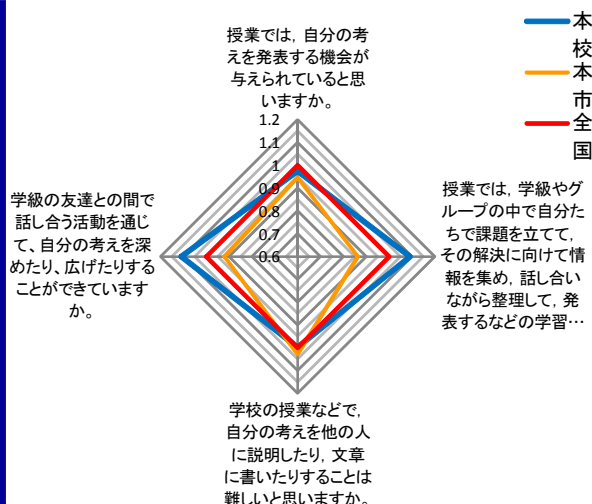
## 1. 教科に関する調査結果の概要

### ① 学力調査結果と分析

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	学力の状況
国語 A	・ 全体的には全国平均正答率をわずかに下回っていたが、書くこと、読むことの領域については、上回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている。
国語 B	・ すべての領域・観点で全国平均正答率を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
算数 A	・ 全体的に全国平均正答率をやや上回っている。図形領域については全国平均正答率を下回っており、課題である。	全国平均正答率との比較 上回っている。
算数 B	・ 全体的に全国平均正答率を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
理科	・ すべての区分・観点で全国平均正答率を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている

### ② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

- ・ 自分の考えを他の人に発表することや、考えを文章に書くことに抵抗感を持っている児童が全国と比べ多い傾向にある。自分の考えを表現する力を伸ばすために「自分の考えを整理する時間の確保」と「かく活動」を重視する（ノート指導、学習感想）必要がある。
- ・ 総じて、本校の児童は、協同学習の中で課題解決に向けて話し合う機会が多く、その活動の中で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。しかしながら、正答率の低い問題を見ると、自分の考えを時数制限内で書くことを苦手としている。今後も話し合い（対話）、意見交換し、まとめたことを書く活動を授業に位置付ける。

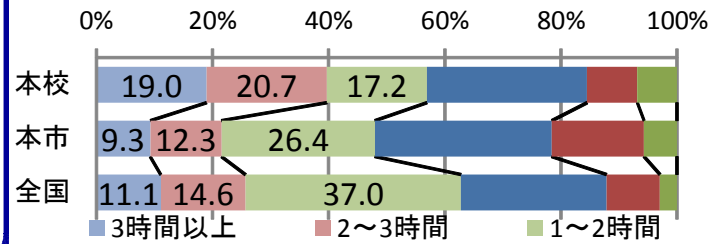


## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

2時間以上家庭学習をしている児童の割合は、本年度全国平均よりプラス評価である。家で計画を立てて勉強することや授業の予習・復習等も全国平均を上回っており、自分で計画して勉強している児童の割合が多い。本年度から家庭教育チャレンジハンドブックを通して全校で時間のめやすを示したり、家庭学習の具体的な取り組み方を提示したりしたことで、自学自習に取り組んできたことが成果として表れている。

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）



### ② 生活習慣等に関する調査結果と分析

- ・ 将来の夢や目標を持っている児童が多く、学習へのやる気につながっている。
- ・ テレビゲームや携帯ゲーム等の接触時間やテレビを見たり、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネット等を等々の時間は上昇している。

## 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科に関する取組

- ◎ 学力向上に関する職員会議の定期的な実施
  - ・ 全職員で問題を解く。（学テ等）
  - ・ 家庭学習や授業の取組、朝自習の取組について検討する。
- ◎ 学力向上のための特設時間の設置
  - ・ 毎週「火・水」は朝の15分間読書、「金」は15分間の国語タイムを設定し、視写タイム・漢字練習タイム・音読等を設ける。「月・木」は15分間の計算タイムを設定し、全校一斉に基礎基本の学習の定着を図る。これら15分間の取組後、落ち着いた雰囲気のまま授業時間を迎えるようにする。
  - ・ 放課後学習タイム〈学期末・・・4・5・6年生（月火木の放課後15分×2週）、1・2・3年生（月火木の放課後15分×1週）〉の時間を設定し、CRTアシストシート・全国学力テスト過去問題を行う。
  - ・ 小中連携サポーター・・・計画的な配置、活動補助、プリント整備。
- ◎ 過去問題、活用力を高めるワークの活用
  - ・ 単元末に過去問題や活用ワークの問題を位置付け「力だめし」をする。
  - ・ 過去問を冊子にして、長期休業日の「宿題」とする。
- 各教科の指導においてICTの活用
  - ・ ICTを活用して、対話の場面を重点化し、子ども達同士の意見交換を活性化する授業を工夫していく。
- 「自分の考えを整理する時間の確保」「書く」ことの習慣化
  - ・ 児童の考えを整理する時間を授業に位置づける。
  - ・ 朝タイムに書く活用を図る。
  - ・ まとめたことを書く活動を授業に位置づける。

### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 宿題のスタンダード化（時間、学年別・教科別内容）
  - ・ 自主学習ノートの活用
  - ・ 家庭学習時間の設定
  - ・ 「家庭学習の手引き」の作成・配布をし、学校家庭が連携して学習習慣の定着を図る。（学校独自に作成・配布済）
  - ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用 ※配布済
  - ・ 長期休業日の宿題に、過去問題を活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
  - ・ 学校便り・学校HP